



唱歌教科書

教師用

卷貳

7
11
68

K121.74
7
A.2

K121.74

7

2

共益商社編



唱歌教科書
卷二
教師用

共益商社樂器店藏版

緒言

弊社晨に善良なる唱歌教科書の編纂を希圖するや、先づ在京知名の音樂及文學の數大家に乞ふて、該書編纂上の審査監督の事を依頼し、同時に廣く書を全國各地なる専門の諸先生に致して、諸地方に於ける該科普及上の状況を始め、一般生徒の嗜好、歌曲難易の程度、旋法の種類、音域、歌曲の品題、分量、及び其排列の順序、教授の方法、其他編纂上要用なる條目に付て、委細の經驗注意等を寄せられん事を乞ひ、之を統計して、先づ編纂上大體の順序方法を定め、品題を撰み、以て文學の大家に之が作歌を依頼し、再び之を各地の諸先生に配布して、其作曲を仰ぎ、集まれるもの數百曲の中に就て、更らに前記編纂監督の任に當られたる諸大家の、最も懇切丁寧なる審議取捨を經、茲

に着手以來幾多の歲月を閲して漸く此の編
は成りたりされば本書は其編纂上最も精密
の手續きを履みて生れたるものなる事を信
ずるものにして、こゝに其歴史を序すると同
時に、謹て之に干られたる諸大家に向て、深く
其好意を陳謝すと云爾。

明治卅五年四月

本書の特色及び使用上

の注意

程度

○ 本書は主として高等小學四學年間の課程
に適應せしむる目的を以て編みたるもの
なり、

(されば本書の第三卷第四卷及び其他の
幾分は、また中學校及び高等女學校にも
適用するを得るものとす)

歌曲排 列順

○ 本書に於ける歌曲排列の順序は斯道の諸
大家の最も精密なる審査を経て成れるも
のにして系統正しく漸次簡より繁易より
難に進めるは勿論遅き曲と早き曲並に勇
ましきものと優しきものとの配合音域の
廣き題目並に歌想曲想の程度季節の順序
及び各學期間に教授すべき歌曲の數等凡
て最も適切なるべき様編まれたるものな
り、なほ曲を追ふて、樂譜上新記號の現はる
ゝ毎に、他の注意すべき諸項目と共に必ず
之を、演奏注意欄内に記述したり、されば特
別の事情ある場合に非れば、妄りに之を取

拾變換する事なく、たゞ全々所載の順序のまま、教授を進行すれば足るものとす、

但し祝日大祭日等の唱歌は、本篇以外別に練習を要すべきものなれば、之を行ふべき學期間の曲数は豫め其割合を以て排列しあるものと知るべし、なほ毎曲必ず充分生徒の熟練するを待て後、次の歌曲に移るべく、又常時既習曲を復習すべき事は論を俟たず、

高尚なる歌曲

○三四年生用の歌曲中には、在來の唱歌集の程度に比して、頗る高尚なるもの無しとせず、されども、もと本篇の歌曲は、悉皆これ本邦人の作にして、特に最も我兒童に適切なものをのみ、撰み集めたるものなれば、彼の外人の作の我國情に叶はざるもの、類を含まず、されば、一二年生より本教科書の順序により、正當の練習を積みたるものは、自然これら高尚なる歌曲をも見事に唱謠し得て、よく其趣味を會得し得るに至るべきを信ず、彼の常時徒らに兒童の容易く擬唱し得らるゝものをのみ、多々注入するが

如きは、斯の科の教授上、善良の結果を擧ぐべき所以に非ず、

但し樂曲教授には、必ず樂譜を用ゐる視覺上の智識をも應用せしめて、意識的練習を爲さしむべき事勿論なり、

〔附記〕本書編纂に當り、一般地方の専門家に於てより聽くを得たる意見の大多數は、一二年生には畧譜、三四年生には本譜を用ゐしむるを以て適當となせり、

調子

○本篇に於ける樂曲は、其自然の性質と、兒童の音域とを考へ、夫れく適當の調子を以て記載しあるものなれば、妄りに移調變換する無からん事を望む、

但し曲により、一音内外の區域に移し得べきものは、演奏注意欄内に之を附記したり、

曲の想

○歌章に意義あるが如く、樂曲にも亦各其想あるものにして、勇ましきあり、優しきあり、廣大なるあり、輕快なるあり、其様一ならず、蓋しこの想こそ、唱歌上最も緊要なる條件にして、これ無ければ樂曲は全く死物と成

り了るべし、本書は毎曲首に必ずこの曲想を附記し、なほ曲によりては、演奏注意欄内に於て更らに之を説明したれば、先づこれに依りて曲趣を悟り、其の心を以て唱歌せば、幾庶くは漸次美的興味を會得するに至らん、なほ特に強弱記號及び發想記號を附記したる曲にありては、充分之に留意して、善く其曲の眞趣味を發輝せん事を望む、但し先づ調子及び拍子に熟達して後強弱及び發想の練習に及ぶを、正當の順序とす、茲に本書に使用したる記號の一般を説明すべし、

<i>pp</i>	最も弱く
<i>p</i>	弱く
<i>mp</i>	稍弱く
<i>mf</i>	稍強く
<i>f</i>	強く
<i>ff</i>	最も強く
<	漸々強く
>	漸々弱く
<i>rit</i>	漸々遅く

速度

○ 樂曲の速度は、また曲想と大關係あるものなれば、其緩或は急に失する事無からん爲め、毎曲必ず拍、節、機の度數（ ||: 言辭）を附記

して、其速度を明示し、なほ一曲中に特別の緩急あるものは、演奏注意欄内に於て、更らに之を述べたり、

拍、節、機

但し新に教授せんとする樂曲は、豫め拍、節、機に依りて、其拍子の速度を計り、試みよく其曲趣を會得し置くを善しとす、又若し教授に際して拍、節、機を使用する事あるも、曲首三四小節間にのみ之を用ゐれば足れり、一歌曲を通じて拍、節、機と共に唱歌するが如きは、機械的に流れて却て曲想を失ふの憂あるべし、

〔附言〕從來唱歌教授の通弊として、樂曲の速度多くは緩に失するの傾あるに如たり、

發聲法

○ 聲音は唱歌上唯一の材料にして、發聲法の善悪は直ちに歌曲の美醜に關す、されば教師は常時兒童の發聲に注意し、能ふべきだけ善美なる聲音を使用せしむる事を怠るべからず、吸息法も亦唱歌上重要な一條件にして、こはまた呼吸機の發育に關する事大なり、本篇樂譜の上部に記したる、 V 記

號は即ち吸息の箇所を示したるものなり、
〔附言從來該科の教授には、暴聲を用ゐて
絶叫するをのみ活潑なる唱歌法と誤解
するの弊あるが如し、くれぐれもこの項
に注意あらん事を望む、

教授上の説明の要

○ 歌詞の意味に付ては、毎歌章の末に大要之
を解釋したるが、教師は先づ歌曲の題目歌
意、曲想等により、善く他科との聯絡を考へ、
又既習歌曲との類似点及び差点等を視適
宜に生徒と問答し、或は善く其意を説明し
て、充分兒童の興味を喚起し、且つ教授の聯
絡を計らん事を要す、

注意欄

○ 上記記載以外の條項は、各曲に注意欄を附
して、一々其内に之を記述したれば、毎曲先
づ之を熟讀して後、教授に從はん事を望む、
第三卷及び第四卷には、卷末に女生徒専用
曲を添へたれば、適宜に之を學期間に配當
して教授すべし、

女生徒専用曲

唱歌教科書卷二 教師用

目次

第一學期	
一 來れ遊へ	二頁
二 ポート	四頁
三 雨	六頁
四 田植	八頁
五 朋友	一〇頁
六 皇統	一二頁
七 蒙古襲來	一四頁
第二學期	
一 乳牛	一六頁
二 海	一八頁
三 眞の勇士	二〇頁
四 月	二二頁
五 行軍を観る	二四頁
六 泉	二八頁
第三學期	
一 雪	三〇頁
二 懷友	三二頁
三 須摩明石	三四頁
四 農夫	三六頁
五 親のめぐみ	三八頁
以上	

來れ遊べ

來れ遊べ、我等が友よ、
 のどけき春の、この野邊に、
 しきつめたる、花の毛布、
 おりいだせる、草の模様、
 植物採集 ころのまま

來れ遊べ、我等が友よ、
 たのしき春の、この野邊に、
 花にあそぶ、百千の蜂、
 動物採集 おもひのまま

此歌は春の野外の遊びの愉快と利益とを知らせたものである。
 緑一面の草すみれ、れんげそーなどの咲きみだれてをる野邊蝶蜂
 などの愉快に飛ぶ空、自然を友とし観察の眼を開いてかたぐ
 動物物を採集するなど、なんと楽しくはないか。
 つがひのこてふの蝶々

演奏注意
 ○豫習曲として第一學年に出でたる「雪の園」を復習すべし
 ○歌はしむるやう注意すべし
 ○第一段と第二段とは音符の價値を異にせり混すべからず

來れ遊べ

愉快 = (♩ = 120) (に調四分ノ四拍子)

三

1. 1. 1. 2. 3. 3. 3. | 1. 2. 3. 4. 5. 6. 5. | 1. 1. 7. 6. 5. 6. 5. | 6. 6. 5. 5. 1. |
 キ タ レ ア ソ ベ ソ レ ガ ト モ ヨ ノ ド ケ キ ハ ル ノ コ ノ ノ ベ ニ
 き た れ あ そ べ わ れ ら が と も よ た の し き は る の こ の の べ に
 1. 1. 7. 6. | 5. 6. 5. - | 6. 6. 5. 4. 3. 2. | 1. 2. 3. - |
 シ キ ツ メ に タ ル ハ ナ ノ モ フ
 は 一 な に あ そ ぶ も も ち の は ち
 1. 1. 7. 6. | 5. 6. 5. - | 6. 6. 5. 4. 3. 2. | 1. 3. 2. - |
 オ リ イ ダ セ ク ル ク サ ノ モ ヨ
 は 一 な に 一 くる ふ つ が ひ の 一 一 て ふ
 1. 3. 2. 2. 3. 4. 5. | 6. 6. 5. 5. 6. 5. | 1. - 0 |
 シ ョ ク プ ツ サ イ シ ョ コ コ ノ マ マ
 ど ク フ ツ サ イ シ ョ コ コ ノ マ マ

活潑 = (♩=126) (と調四分ノ二拍子)

ボート

五

潮 湖 風 海 園 一 の 浪 た こ げ や こ げ
 い さ ま し や 二 こ ち や な り
 さ わ る へ こ ぐ わ れ ら
 と び か け る 舟 は 鳥
 か い の 羽 三 か ち の 爪
 萬 里 の 海 も 一 の 海 園 兒
 東 洋 一 の 海 園 兒

此句は後の句につゞくのではない。いざ
 舟は鳥しとびはしる舟は鳥の如
 かいの羽かちの爪舟の爪にたとへたのである。

演奏注意
 ○第三段に於ける各小節の第一音符は特に稍強聲に歌ふを要す
 ○一個の四分音符の下に二語の歌詞あるものは平等に之を二個の八分符
 に分ちて歌ふべし

雨

(小兒)

いづこを出で、いづこに至る、あしぶみはやく、窓うつ雨よ。

(雨)

雲よりいで、草葉にやどる、せはしやわれは、きのふも今日も。

(小兒)

野山共、わが身も行かん、の花に、やどるはうれし。

(雨)

いなく我ぞ、おん身とならん、ピアノを弾きて、遊ぶは樂し。

(小兒)

あめくさらば、どんとと降れや、われらが歌と、あはせてやらん。

此歌は雨を生命ある兒童の如くに見たて、兒童とのかけあひ問答になぞらへたのである。雨の降る音兒童の歌ふ聲まるで自然の合奏のよゝであるとの意。いづこを出で、いづこに至るこへゆくのか。

注意演奏

○此の曲第一段及第二段は八分の四拍子にして第三段及び第四段は四分の四拍子なり音符の價値に注意すべし。
○第二段の末節より第三段へ移る時及び第四段より第一段へ反る際や、其速度を緩むる意なるべし。
○Cresc. は此の所より盛れる所へ反へす可きを示し、Dim. は最後に此の所にて終るべきを示す。
○Tr. は Ritardando の略字にして速度を漸次緩むべきを示す。
○此の歌曲は問答體のものなれば生徒を二組に分ち甲を小兒、乙を雨として交互に唱歌せしむれば大に興味あるべし(但し當初は組を分つ事なく全生徒同時に之を授け其熟するを待て組を分つ可也)
○歌詞ピアノをひきてはオルガンひきてとするも可也

樂シク(♩=116)(へ調八分ノ四拍子)

Musical notation for the first system of the song 'Rain'.



雨



Musical notation for the second system of the song 'Rain'.

ヤ、オチツイテ(♩=100)(四分ノ四拍子)

Musical notation for the third system of the song 'Rain'.

Musical notation for the fourth system of the song 'Rain'.

田植

も 此 早 歌 名 此
 名 苗 にお 苗 ひて 苗 へて 苗 に、
 にお ふ そ、 國の、 千、 五 門 賑
 瑞 百 の 田 賑 穂 秋 の し、
 の と、 早 稲 苗

(二)

も 此 早 苗 共 同 胞 命 の 本
 き ほ ひて うる よや、 四 千 餘 萬 の
 わ が 同胞 が 命 の 本

(三)

賑 は 歌 植 又 勇 植 務 御 國 の ため
 う る は 我 等 が、 務 の み か、
 同胞 の ため、 御 國 の ため

門 田 の 早 苗 門 の 外 即 ち 屋 敷 ち かく
 千 五 百 の 秋 日 本 の 國 は 千 五 百 秋 千 足 の 國 と も 稱 して 千 秋 萬
 瑞 穂 て み づ く し く み の り 瑞 穂 て め て たい 稻 の 穂

田 植 は 一 粒 萬 倍 四 千 餘 萬 の 命 の 本 で あ る か ら 元 氣 よ く 植 え よ と
 い ふ 意 易 し 敷 け に 歌 々 注 意 す べ し
 も ろ 聲 に ろ へ て せ

演奏 ○ 各段の第二小節なる第三拍目の音符は押し付けるが如く歌ふの弊あり
 注意 ○ 又各段末節の陽點二音符は必ず其價值だけの音長を保つ様注意を要
 するなるべし

樂シゲニ(♩=112)(と調四分ノ四拍子)

田 植

朋友

たがひにはげまし、

よきにすゝみ、

これこそまことの、

たゞしき友よ、

これこそまことの、

たゞしき友よ、

うきことあるとき、

たのしきときには、

これこそまことの、

これこそまことの、

まことの友こそ、

もとめてむつべよ、

もとめてむつべよ、

たがひにはげまし云々

うきことなきことばい

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

たがひにはげまし云々

骨肉

もとめてむつべよ

楽シゲ=(♩=138)(は調四分ノ四拍子)

The musical score consists of four staves of music. The first staff is the vocal line, starting with a treble clef and a key signature of one flat. The tempo is marked 'mf' and the time signature is 4/4. The melody is simple and melodic. The second staff is the piano accompaniment, starting with a bass clef. The third and fourth staves are additional piano accompaniment parts, also in bass clef. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings.

朋友

演奏注意 ○常曲の如き曲風のものには往々記載音符以外のふしを添ふるの弊生じ
 ○各段末節の附點二分音符は其音尾を殊更押し附くる事なき様注意を要す
 ○快活に歌はしむべし然かも叫ばしむべからず

皇統

(一)
 みなもとときよき、五十鈴川
 千代の、みめぐみに、
 たえせぬ代々の、そだつなり。
 四方のたみくき、
 (二)
 みなもととほき、みもすそ川、
 ながれは千古、たえまなし、
 たえぬ御系統の、たふとさは、
 とつくに人も、あふぐなり。

この歌は天皇陛下の御系統が幾千萬年の後までもおかはりないことを川の流れるの濁らぬにたとへたのである。かゝる貴い天皇で仰ぎおのであるよといふ意はどれほどであらうか。外國人

五十鈴川 伊勢國皇太神宮の城外を流れる川であるから皇太神宮の御子孫なる皇統にたとへたのである。川は五十鈴川の上流だともいふ。又みもすそ川は五十鈴川の名はみもすそ川ともいふ。又みもすそ川は五十鈴川の名はみもすそ川ともいふ。又みもすそ川は五十鈴川の名はみもすそ川ともいふ。

演奏 〇豫習曲として一學年に出でる、日本三景を復習すべし
 〇各小節の第二拍及第四拍音符弱部を稍弱く歌ふ様又凡ての符點二分音符を必ず其價值だけ延長する様注意すべし

皇統

静肅=(♩=84)(は調四分ノ四拍子)

皇 統
 三 三 五 五 | 六- 五 五 | 三 三 五 五 | 六- 五 〇 |
 ミ ナ モ ト キ ヨ ほ キ イ ス ズ ガ ハ
 セ シ ナ ナ コ タ エ マ ナ シ
 三 三 五 五 | 六 六 五 五 | 二 二 七 七 | 六- 〇 |
 タ ヌ セ ヌ ヨ ヨ ノ 一 ミ メ グ ミ ニ
 ヨ 一 モ ノ タ ミ ク サ ソ ゴ ツ ナ
 と つ も の び ー と も ぁ ふ ぐ ナ リ

乳牛

朝露あさつゆ

のこる小草くさくさ (一)

角かど

にわけつつ、

噉くさめ

ひはなびて、

こゝちよげに

なにあさる。

(二)

あとより尾おふり尾おふり、

母ははを追おひくる、

わがこ見みかへり、

うれしげにも、

あゆむさまよ。

(三)

けさわがのみし乳ちも、

それと思おもへば、

わきてなつかし、

こゝろなげに、

あそぶうしも。

噉くさめびるこころは鼻はなでうなること、

あさる食くを求め

演奏注意 ○豫習曲として一學年に出でたる二月の遊びを復習すべし
○此の曲の最初の半小節は三拍半より初まり、歌ひ出しに注意すべし
○あさつゆとのこるの間に自らなる切た目あり

乳

牛

楽シゲ=(♩=120)(と調四分ノ四拍子)



5 6 7 | 1-1 3 3 1 | 5 3 2 5 | 3 1 2 1 2 3 | 1-0 6 6 6 |
一. アサツ ユーノ コル ラグサツ ノニワケツーツ ハナビ
二. あとより一をふりをふりははおひくる わがこ
三. ケサソ ガーノ ミシ チチモン レトオモヘーバ ツキテ



5 1 3 1 | 2 5 6 5 | 5 3 3 1 2 5 | 5 3 2 1 2 3 | 1-0 |
ハナビ一 テココチ ヨーダニナ ニヲア一サル
みかへ一 りうれしげ一に一もあゆむさ一ま一よ
ナツカ一 シココロ ナーダニア ソブウ一シーモ

調大=(♩=104)(に調四分ノ四拍子)

mf

5 | 1- 7 6 | 5- 4 | 3. 2 1 2 | 3- |

ク な め み こ そ ミ は ハ わ が - モ ナ ク よ

5 | 1- 7 6 | 5- 4 | 3. 3 2 5 | 1- |

ソ フ ラ ネ ヒ コ ク は ヤ わ が ミ ウ エ - ズ よ

mp

1 | 2- 2 2 | 3- 2 3 | 4. 3 2 3 | 6- 5 |

ウ シ ホ ソ キ - ミ サ - ゴ マ フ -

い ざ ゆ か ん - い さ ゆ か ん -

mf

5 | 1- 7 6 | 5- 4 | 3. 5 4 2 | 1- |

オ ホ ヒ ナ ル ワ ガ - ツ ミ ヨ

う め の ほ か な み - の を ち



海

演奏注意
 ○○豫習曲としては一學年に出でたる「母の思ひ」を善しとす
 ○○第三段は漸く早く、稍速るが如き意にて歌ふべし
 ○○凡て滑かに歌ふを要すスラーある音符特に然り
 意特に發想に注意すべし

みわたすかぎりはてもなく、天と水とが一つゞきになつてをる大
 海その大海に大船を浮べて、外國までも乗りまはるといふは實に
 勇壯愉快であるとの意。
 みさこ 舞ひ魚をとりて食ふに
 波のをち 波のあち

雲クモの波なみはてもなく、
 空ソラの低ひく山やま見えず、
 うしほわきみさこまふ、
 大おほなるわが海うみよ、
 波なみこそは、わが道みちよ、
 舟ふねこそは、わが馬うまよ、
 いざゆかむ、いざゆかむ、
 海うみのほか、波なみのをち。

眞の勇士

(一)

虎をば斬るもの、眞の勇士か、
 城をば抜くもの、眞の勇士か、
 人をば刺すもの、眞の勇士か、

否 否 否

(二)

傲慢いつはり、そねみやなまけ、
 虎にもまされる、心の敵を
 おさへてひしぐが、眞の勇士ぞ、
 げに、げに、げに。

傲慢いつはり、そねみやなまけなどは我が心に起る敵で此等の敵が
 心中に起つてくると決して立派な人とはなれぬ。故に此等の敵
 はどうしても亡ぼさなければならぬが之を亡ぼすことはよほど
 むづかしい。之を亡ぼす人ならば眞の勇士であるといふことを
 よんだのである。

演奏注意 ○豫習曲としては田植の曲可なり
 ○田植に於けると等しく此曲も亦各段の第二小節なる三拍目の音符は
 軽く歌ふを要す
 ○イナイナイナ及びげにげにげには稍弱く且つ其拍子を稍緩めて歌ふ
 べし

眞の勇士

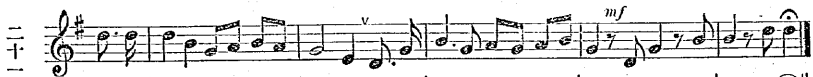
勇壯 = (♩=120) (と調四分ノ四拍子)



5. 5 | 1 1 2 1 2 3 | 1- 5 1. 3 | 5. 3 2 1 2 3 | 2- 0 |
 一. トラヲバキールーモノマコトノユシーカ
 二. ごーまんいーつーはりそねみやなまーけ



5. 5 | 1 1 2 1 7 6 | 5- 3 5. 1 | 3. 1 2 1 2 3 | 5- 0 |
 シロヲバサースーモノマコトノユシーカ
 とらにもまーさーれるこころのてーきーを



5. 5 | 5 3 1 2 3 2 | 1- 6 5. 1 | 3. 1 2 1 2 3 | 1 0 5 1 0 3 | 3 0 5 5 |
 ヒトラバサースーモノマコトノユシーカイナ イナ イナ
 おさへてひーしーぐがまことのゆーしーぞげにげにげに

溫和 = 且ツ圓滑 = *Andante Cantabile*. (♩=88) (は調四分ノ二拍子)

mp *mf*

三
ウツギガモチヲツクトイフイニシヘビトノ
かつらの はなが さくとい ふ ふるうた びとの

mp

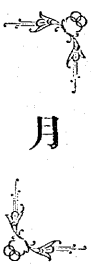
七 七 七 七 | 三 . 0 | 二 三 三 | 二 三 一 六 | 七 七 七 七 | 七 . 0 |
カクツツギ ツキノセカイノアノクマハ
ひつたへ つきのせかいのあのかまは

mp *poco rit.* *rit.*

三 三 三 | 六 七 一 一 | 三 六 七 一 | 六 . 0 |
イ マ モ ソ タ タ | ユ ル シ ヤ マ ノ カ あ
む か し た た | へ し う み の か と

(♩=116) *meno mosso*. 漸次早ク *rit.*

六 七 一 一 | 七 六 一 三 | 六 一 三 三 | 三 . 0 |
ジュ一ゴヤオツキサマヤミテリハマチル
も一みちすれはまや



月

演奏注意
○此の曲は華ろ弱聲を以て頗る遅く(八分音符は四分音符位の考へを以て)愛らしく且つ優美に歌ふを要す
○第三段(木なる)より漸次速度を早め見てはねるは再び始めの速度にかへりて歌ひ出すべし
○第四段(十五夜)より漸次速度を早め見てはねるは再び始めの速度にかへりて歌ひ出すべし

鬼が餅をついて居るとか桂の木がはへて居るとか昔より言ひつ
くよんだのであるは山のかげ海のとてであるといふことを面白
十五夜お月様見てはねるふるき童謡
桂の花かつらといふ木だそうでも
紅葉すればや照りまさる桂王生忠峯の歌にひさかたの月の
りまさるらんとあり桂も秋はなほもみちすれば紅葉す
るから光りがありますのであらうかといふ意

月桂 月 鬼
の古の花の古が
昔の歌人がの咲くといふ
た、世、界、の、人、の、あ、の、い、ひ、傳、へ、
紅葉すればや照りまさる。跡
の古の花の古が
昔の歌人がの咲くといふ
た、世、界、の、人、の、あ、の、い、ひ、傳、へ、
紅葉すればや照りまさる。跡
の古の花の古が
昔の歌人がの咲くといふ
た、世、界、の、人、の、あ、の、い、ひ、傳、へ、
紅葉すればや照りまさる。跡

行軍を観る

(一)

あれ聞け聞ゆる、喇叭の音

トテト トテト テッテテテ

テトテトテ、

軍隊きたる、兵隊きたる、

あかの帽子か、近衛兵

胸に勳章、腰に劔

武装の士官、いさまじや、

赴々たる武夫は、國家の干城、

君を守の武士よ、君を守の武士よ、

(二)

あれ聞け 聞ゆる、太鼓の音

ドンドンドンドンドンドンド

ドンドンドンドド、

軍隊きたる、軍隊きたる、

黄なる帽子か、師團兵

背には背囊、肩に銃

武装の兵士、いさまじや、

赴々たる武夫は、國家の干城

國を護の兵士よ、國を護の兵士よ、

勇ましい〜軍隊が来た、赤帽子は近衛兵、黄帽子は各師團兵か、この勇ましい兵士は皆これ國家の干ともなり城ともなりて國家を護るものであるといふ意。

赴々たる 詩経周南篇に「赴々武夫、國家干城」とあり、赴々はたけく勇ましげなこと。

演 〇豫習曲として「來れ遊べ」を復習すべし

注 〇「トテトテ云々」は樂器のみにて奏するも可なり

意 〇國家の「コク」及び「ラッパ」の「ラ」は促聲に歌ふべし

勇マシク (♩=108) (と調四分ノ四拍子)



1 1 1 3 2 1 0 1 | 5 5 3 1 2 0 5 | 1 5 1 5 1 1 3 5 | 5 3 5 3 1 0 |

一. アレキクキコニル リツバノ子 トテトテテテテテ テテテテテ

二. あれきりきこゆる たいこのね どどどどどどどど どどどどどどどど



1 1 3 2 1 2 0 | 5 3 1 2 3 2 0 | 1 1 1 6 0 5 5 1 | 2 3 2 1 2 3 0 |

軍 太 太 兵 太 兵 アーカノホーシカ コノエヘイ

軍 太 太 兵 太 兵 きーなるぼーしかしだーんへい



5 6 5 3 1 2 3 2 | 1 2 1 6 5 0 | 1 3 5 6 5 5 3 | 2 1 2 3 2 1 0 |

ム 子ニコクシヨー コシニクン アツノシカン イサマシヤ

せーにルルいゆー かなにつつ ぶそーのへいし いきまじや

行軍を観る

(二十六ページのへつ)



5 5 6 5 | 5 3 3 1 2 - | 1 1 6 5 | 1 1 2 3 1 - |

キーキータ ル アーフーハ コーカノカーンジョー

ジョージョーた る ぶーぶーは こーかのかーんじー



1 1 1 6 5 5 1 | 2 2 1 2 3 0 | 5 5 3 1 2 3 4 6 | 5 5 5 5 1 0 ||

キーミチマモリノモノノフヨ キーミチマモリノモノノフヨ

くーにましろの つはしよ くーにましろの つはしよ

行軍を観る

(二十七ページのへつ)

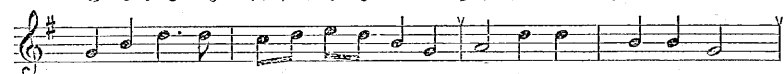
輕ク(♩=126)(と調四分ノ四拍子)



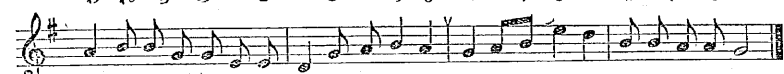
1 3 2 1 5 | 5 6 5 3 1 | 2 2 3 3 1 1 6 | 5 5 1 2 3 3 2 |
 ヒ ト シ ヅ ク フ タ シ ヅ ク コ シ キ イ ハ マ モ リ ク ル ミ ヅ ヨ
 ひ と な が れ ふ た な が れ さ か し き た に ま わ け ゆ く み づ よ



1 3 2 1 5 | 5 6 5 3 1 | 2 2 3 3 1 1 6 | 5 5 1 2 3 3 2 |
 ナ ツ ノ ヒ モ フ ユ ノ ヒ モ カ レ ズ ニ ナ ガ レ マ サ ラ ズ ニ ユ ク
 あ め の ひ も は れ の ひ も に ご ら す な が れ す み わ た り ゆ く



1 3 5 . 5 | 1 5 6 5 3 1 | 2 - 5 5 | 3 3 1 - |
 ワ レ ラ ノ ツ ト メ カ ク ゾ カ ク ゾ
 わ れ ら の こ こ ろ も か く ゾ か く ゾ



2 3 3 1 6 6 | 5 1 2 3 2 | 1 2 3 6 5 | 3 3 2 2 1 - |
 カ ク ゾ ア ル ベ キ オイ コ ツ マ ラ ズ オイ コ ツ マ ラ ズ
 か く ゾ あ る べ き おい こ つ ま ら ズ おい こ つ ま ら ズ

泉



演奏注意 ○豫習曲としては朝起可なり
 ○拍子の緩漫に流れざる様に明瞭に歌ふべく又息の切れ目の目立たぬ様
 注意すべし

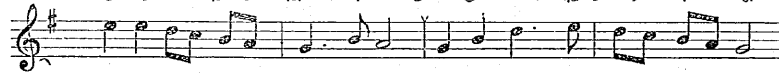
泉は細けれど、さらさら／＼と流れて晝も夜も休まない。我等の事
 物につとめぬものも此の如くでなければならぬ。又これらの泉は
 いつも清く澄んで居る。我等の心もその通り潔白でなければな
 らぬといふが此歌の主意である。
 こゝしき岩根のあいた谷
 さかしき谷間のあいた谷
 水がながるに
 水がながるに
 まさらすに水がながるに

泉 (一)
 ひ と し づ く、
 な つ の ひ も、
 わ れ ら の つ と め も、
 お こ た ら ず、
 ひ と な が れ、
 さ か し き た に ま、
 あ め の 日 も、
 に ご ら ず な が れ、
 い つ ま で も、
 ふ た な が れ、
 わ け ゆ く 水 よ、
 は れ の 日 も、
 す み わ た り ゆ く、
 か く ゾ あ る べ き、
 に ご り な く、
 た え ま な く、
 ま さ ら ず に ゆ く、
 ま ゆ の ひ も、
 ふ も り くる 水 よ、
 ふ た し づ く、
 ふ む の ひ も、
 ひ と し づ く、
 な つ の ひ も、
 わ れ ら の つ と め も、
 お こ た ら ず、

愉快 = (♩=160) (調四分ノ四拍子)



5 1̣. 3̣ 5 6 | 5 6 5 4 3- | 1 3̣. 3̣ 2 5 | 1 2 3 4 5- |
シロガネのツチナシロガネクサキ
しろがねのはーやししろがねのみーやま



6 6 5 4 3 2 | 1. 3 2- | 1 3 5. 6 | 5 4 3 2 1- |
イチヤニナレルコノギンセカーイ
せんかーいーらくといまめのまーへーに



5 1̣. 3̣ 5 6 | 5 6 5 4 3- | 1 3 2. 5 | 3. 2 1- ||
オモシロヤニハノユキケシキ
おもしろやのハノユキのけしき

ヤ、オソク *Piu Lento* (四分ノ二拍子) rit ar dan do



5 1̣. 3̣ | 5. 5 5 5 | 6 5 | 1 3 2 1 | 2- | (5-)
マタモフテキスアレチチチチ
あさひてりそふあれちきらちきらちきら



雪



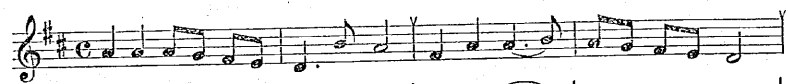
雪
白がねのうてな、白がねのくさき、
おもしろや庭の成れる、雪のけしき、
またもふりさぬ、雪のけしき、
あれ、チラ、チラ、チラ。

白がねのはやし、白がねのみやま、
おもしろや野邊の、雪のけしき、
朝日てりそふ、雪のけしき、
あれ、チラ、チラ、チラ。

夜の間に降つた雪で、どこもかも真白になりてうつくしい。その上には降つたり照つたりして景色の變化がおもしろいといふこと。
白がねのうてな、銀でこしらへた。
銀世界、銀でつくつた。
仙界、仙人の住む世界。
樂土、極樂世界。

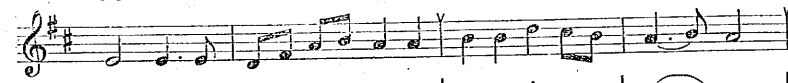
演奏注意
○第一段より第三段までは稍急拍子に（緩漫ならぬ）第二段の終りを稍緩め、第四段四分ノ二拍子は前段より稍遅く歌ふべし。第二章の歌は再び始めの速度を以て歌ひ出づべし。前出月ノ曲の如かるべし。
○ *Moderato* は *rit* と等しく漸次速度を緩むべきを示せる樂語なり。前出月の曲参照。

思ヒヲ以テ(♩=138)(に調四分ノ四拍子)



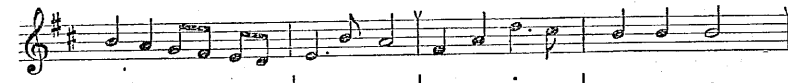
5 5 5 4 3 2 | 1. 6 5 - | 3 5 5. 6 | 5 4 3 2 1 - |

ソラヂーヲアシニベントコシニ
しよつをひごにえんびつみみに



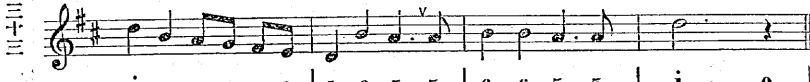
2 - 2. 2 | 1 3 5 6 5 5 | 6 6 i 7 6 | 5. 6 5 - |

トモニノヤマヲカケリシトモ
とものにつきみてかたりしと



6 5 4 3 2 1 | 2. 6 5 - | 3 5 i. 7 | 6 6 6 - |

アアソノトモハシラスク
ああその一ともはたこくのそらに



i 6 5 4 3 2 | 1 6 5. 5 | 6 6 5. 5 | i - 0 ||

タレトノヤマイマカカケル
たれと一つきみていままかかた

三十三

懐友

草鞋を足に、
辨當腰に、

ともに野山を、
かけりし友

あゝその友は、
しらぬ他國に、

誰と野山を、
今かかける。

書物を膝に、
鉛筆耳に、

ともに月見て、
かたりし友

あゝその友は、
他國のそらに、

誰と月見て、
今か語る。

誰と野山を今かかける
か今は誰をとともに野山を

須磨明石

浦波ウラナミ まする、松マツ かげに、
 須磨スモ 山ヤマ 風カゼ 吹フク たちなびき、
 夕ユフ をつぐる、鐘カネ の音ネ
 さしくるしほに、(二) 明石
 千鳥チトリ やすらふ帆ホ 影カゲ 月ツキ を載カせ、
 ながめに一夜イチヤ われさへも、
 明石アカシ の底ソコ 濁ナグ

須磨の浦の景色のよいことを言ふならば波の打ちよせる松の木
 のかげに鹽焼小屋からでる烟がたなびいて山から吹きおろす風
 もない夕暮に鐘がこうくと鳴るなど言ふにいはれぬ。又明石
 渦はどうかといふにさし滿ちてくる潮には月かげがきらめき止
 まつて居る帆のかけは波の底にうつりその景色のよいに浮か
 れて千鳥でもない我さへもながめて夜あかしをしたといふこと

一夜明石濁しを言ひかけてある。

(俗解)

演奏注意 ○特に發想に注意すべし
 ○第二段及び第三段に於ける八分音符の連続は滑かに急がぬやう歌はし
 むべし

須磨明石

優美=(♩=96)(と調四分ノ四拍子)

1 2 3 1 | 6. 5 5- | 5. 5 3 1 | 2- 0 |
 ツ ラ ナ ミ ヨ | エ ス ル | マ ツ カ グ | ニ セ
 さ し く る し ほ に | に | つ き を の | せ

3. 4 5 3 | 6. 6 5- | 3 2 3 4 5. 5 | 1- 0 |
 シ ホ ヤ シ ク ケ ム リ ター ナー ナー ビ キ
 や す ら ふ ほ か げ なー みー のー そ

5. 5 3 2 | 1. 3 5- | 2. 2 3 2 3 6 | 5- 0 |
 ス マ ヤ マ ア ラ シ フ キ ター エー テー
 ち ど り に あ ら ぬ わ れ さー へー も

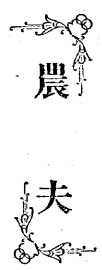
5. 5 6 5 | 1. 2 3- | 5. 5 3 2 | 1- 0 ||
 エ フ ベ フ | ッ グ ル | カ 子 ノ オ | ト
 な が め に ひ と よ か あ か し が た

農夫

炎陽のぼる、畑に小田にば
 一 鉄おりのたつたごの、君の歌みため
 二 鉄振るも、も、國のため
 三 種代水に、手くびふりて
 一 粒子まく(二) 倍田子の、歌きけ
 二 万倍や日利、こ降れぞ命け
 三 黄金となびく、うましいなを、ば
 今年刈りとり、田子の、うたへ子も
 よろこへ妻も、いつにもなし

大平の御代の農夫が耕しつ、思ふ心をよんだのである。
 炎陽春の月きらりと霞のように立ちのぼるもの。
 おりたつ田子、田に下りて居る農夫。
 一 鉄ふるも、銀をふりて田を打ちおこすのも。
 二 苗代水に、稲の苗をつくてある田の水のうへに。
 三 つまけや日和云々、五日の風十日の雨というて晴天と降
 黄金となびく、稲がみのりて黄金色になりて風になびくこと。
 うまし稲みごとないね、うましとは美といふこと。

演奏注意
 ○ 悠々と樂しげに歌ふを要す
 ○ 第三段末節なる二個音符は極めて滑かに且つ其第二音符を稍短かく且つ弱く歌はしむべし



農

夫

樂シゲニ(♩=120)(へ調四分ノ四拍子)

Musical score for the song '農夫' (Farmer). It consists of four staves of music in G major, 4/4 time, with a tempo of 120 beats per minute. The lyrics are written below the notes. The first staff is the vocal line, and the subsequent three staves are accompaniment. The lyrics are: かなはが、ろし子、りろト、ノみナ、がび、ルにク、ハてリ、ニびシ、チふイ、ダリ子、ニてチ、またカ、リハリ、タスト、ツク、ル、またタ、ノ、ウラウ、タタキ、ケリケ、ババ、ヒ、ト、ク、リ、フ、マ、ル、ン、イ、キ、ミ、ノ、ミ、ミ、メ、メ、シ、フ、ツ、タ、ク、リ、ハ、マ、ハ、フ、ン、レ、キ、モ、リ、モ、ニ、レ、タ、ハ、メ、メ、

親のめぐみ

(一)

あつくふかきは、御親のめぐみ、
 山も及ばず、海なにならず、
 泣けばあやかす、寝る目もねずに、
 病めばかなしむ、食をもくほで、
 早く笑へよ、笑へば這へよ、
 這へばあゆめと、あさゆふ祈る、
 あーありがたき、御親のこゝろ、
 胸にきざんで、忘れてならうか。

海なにならず 親のめぐみの深いのにくらべ
 胸にきざんで 心にしかとお

演奏注意
 ○豫習曲としては「須原明石」可なり
 ○常曲に於て初めて臨時記號用ゐらるゝ該音符は初習者には稍困難
 ○なれば充分の注意を要するなるべし
 ○第三段に於る「Allegro」は前段の號によりて緩めたる速度を、此の所
 ○より再び元の速度にかへりて唱ふべきを示せる樂語なり
 ○凡てよく「發想記號」に注意すべし

親の恵み



溫和 = (♩=92 (と調四分ノ四拍子))

mf

1- 1 3 | 2 1 6 1 | 5. 5 1 3 | 3 2 2- |
 ア ツ ク フ カ 1 6 1 | 5. 5 1 3 | 3 2 2- |
 は や く わ ら へ ハ ミ オ ヤ ノ メ グ ミ
 三 は や く わ ら へ ハ ミ オ ヤ ノ メ グ ミ

rit.

5- 6 4 | 3. 3 2 2 | 3 2 3 3 | 4 4 (5- |
 ヤ マ モ オ ヨ バ ズ ウ ミ ナ ニ ナ ラ ズ
 は マ へ ば あ ヨ め と あ さ ヨ フ ない の る

Allegro

mp

5- 6 7 | 1 2 3 2 | 3. 3 2 1 | 7 1 2- |
 ナ ケ バ ア ヤ カ ス 3 2 1 | 7 1 2- |
 あ け ば が た き ち め ル メ モ 子 ズ ニ ろ

mf

5- 3 6 | 5 4 3 2 | 1 5 1 3 | 3 2 1- ||
 ヤ メ バ カ ナ シ ム ショ ク ラ モ ク ハ デ
 む ね に き ざ ん で かわす れ て な ら っ か

明治三十五年五月一日印刷
明治三十五年五月五日發行

定價金參拾錢

編者

共益商社樂器店

東京市京橋區竹川町十三番地



代表兼發行者

白井銈造

東京市京橋區竹川町十三番地

印刷者

野村宗十郎

東京市京橋區築地三丁目十五番地

發行所

共益商社樂器店

東京市京橋區竹川町十三番地



印刷所

東京地酒造

東京市京橋區築地二丁目十七番地

11
18

